提案 横浜市が考える「真の国際化」

～就航範囲はASEAN諸国をカバーすべき～

今、羽田空港では…

羽田空港の現状

羽田空港は、都心から近くアクセス利便性の高い空港です。

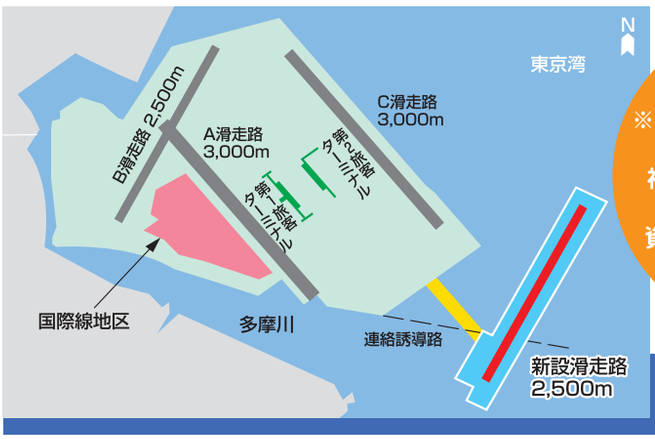
現在は、国内線の基幹空港として、年間約6,500万人が国内線を利用しているほか、チャーター便の活用等により年間約160万人が海外へも渡航しています*。

＊平成18年空港管理状況調書

再拡張事業・国際化の必要性

将来の航空需要の増加や国際定期便の就航による国際競争力の強化に対応するために、2010年10月の供用開始に向けて４本目の滑走路を新設するとともに、国際線ターミナルなどの「国際線地区」を整備します。

供用開始後には、国内ネットワークの充実が図られるとともに、国際旅客定期便の就航が予定されています。

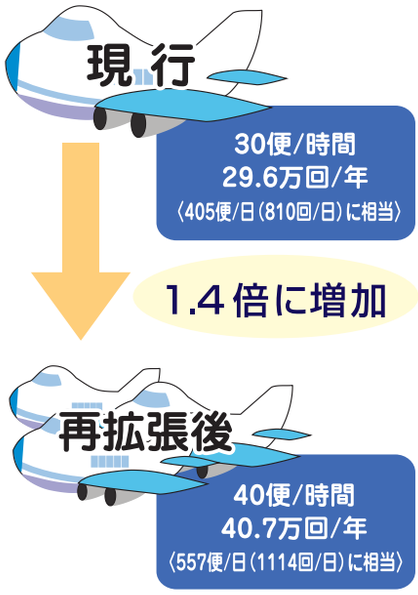


※再拡張事業に対しては、東京都1,000億円、神奈川県・横浜市・川崎市それぞれ100億円の資金協力を行っています。

新設滑走路予定図
（出典）国土交通省資料

再拡張後は…

増える発着枠



※発着容量は、飛行機の便数もしくは発着回数で数え、1便＝2回でカウントします。
（出典）国土交通省資料を基に横浜市作成

横浜市が提案する真の国際化とは？

都心からのアクセスが容易な羽田空港を国際空港として積極的に活用し、日本経済を支える首都圏と成長著しい東アジア諸国との相互アクセスを強化することが重要です。

すなわち、羽田空港からの国際定期便の望ましい就航範囲は、少なくともＡＳＥＡＮ諸国を含む東アジアの主要都市までをカバーすべきであると考えられます。

横浜市は、日本の国際競争力強化を現実のものとし、日本と東アジアが互いに成長・発展し続けていくため、国に対して「羽田空港の真の国際化」を機会あるごとに働きかけています。

羽田空港の真の国際化

再拡張後の羽田空港の国際定期便の就航範囲は、少なくともASEAN諸国を含む東アジアの主要都市をカバーすることとし、羽田空港・成田空港それぞれに国際線・国内線を適切に配置すること

ヒト・モノ・カネ・情報など、様々なものが地球規模で移動・波及しており、あらゆる分野で急速にグローバル化が進展しています。このようなめまぐるしい時代の流れを我が国の活力に取り込めるよう、国として、大胆な国際戦略を打ち出していくことが求められています。

特に、経済分野において、東アジアは「世界の成長センター」と位置づけられており、今後、ますます成長が見込まれているところです。このような活力ある国・地域との相互アクセスを強化することは、首都圏全体、ひいては日本経済全体の発展につながるものであり、そのためにも、今こそ「羽田空港の真の国際化」が必要となっています。

横浜市長　中田　宏